

カトリヤンマ

Gynacantha japonica Bartenef

トンボ目ヤンマ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー なし

選定理由

以前は普通種であったが、10年以上にわたって、県内ではまったく確認されていなかった。能登半島の志賀町で2002年に確認され、2006～2007年にも観察されたが、極めて希少である。

形態

腹長46～53mm、後翅長42～50mm。複眼が大きく、腹部のくびれが目立つ黄緑色で細長いヤンマで、オスの腹部には大きい耳状突起があり、メスの尾毛は極めて細長い。

国内分布

北海道南部から沖縄まで、広く分布。

県内分布

最近、志賀町の2地域で少数の成虫が確認されている。かつては南加賀から能登まで広く生息し、小松市（大杉谷、安宅、安宅新、松任町）や、金沢市の低山帯から丘陵部、羽咋市気多大社、中能登町石動山、七尾市小丸山公園などから記録されている。特に金沢市崎浦地区では、きわめて多かった。

生態

幼虫は平地～丘陵の水田、小川、樹陰の多い池などに育つ。成虫は6～7月に羽化し、11月頃まで活動する。夕刻と早朝の薄明時に主に飛翔して摂食し、日中はうす暗い林内の枝に下垂していることが多い。産卵は、水辺の軟泥中に単独で行う。

生息地の条件

樹林にかこまれた汚染のない池や小川、水田など里山的な環境の豊かな地域。行動範囲が広いため水圏～陸地を含めて広域の自然状態がよく保たれていること。

生存の危機

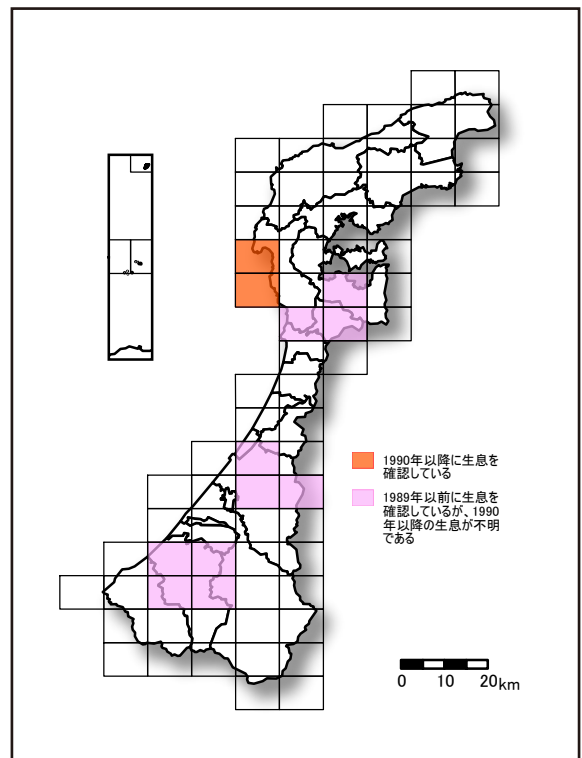
農業、廃水などによる水系の汚染、池沼の埋め立て、堤防のコンクリート化や防水シート張り、農業の空中散布、林野の開発、餌となる小昆虫の汚染や減少による二次的影響や、捕食性魚類の移入など。
(A、B)

参考文献

武藤 明 1998. トンボ目. 石川県の昆虫 : 49-57. 石川県自然保護課.
武藤 明 2007. 石川県の蜻蛉に関する最近の知見. とっくりばち, (75) : 24-28.



標本提供者: 武藤明



県内の分布